

## 編集 後記

本号に掲載している3本の論文のうち最初の2本は、介護予防の施策と健康づくりの施策をテーマにしています。いずれも時代のニーズに叶う論文です。最後の1本は、国民健康・栄養調査の妥当性をテーマにしています。調査研究手法に関する論文の発信も本誌の大切な役割であることを、忘れてはなりません。

健康医療産業が、日本の成長を支える柱の一つとして位置づけられ、経済の活性化と成長に直結しそうな最先端のシーズが脚光を浴びています。しかし、ビジネスになるかが重視されすぎていると危惧します。健康医療領域の基盤でもある公衆衛生の領域において、日本での実践と調査研究活動には、他の国での、社会インフラとしての公衆衛生の機能の整備と拡充に貢献できるシーズがあるはずで、特にアジア、中近東、アフリカ地域には、そのようなシーズを求める新興国が多数あると思います。日本の公衆衛生領域での取り組みを、日本から海外へ積極的に発信し、相手方にもっと知ってもらうことが必要です。本誌も、日本での取り組みを報告する英語論文を増やすことを求められるのではないのでしょうか。本誌が、日本での公衆衛生領域の地道な実践と調査研究活動を、発表言語によらず、正確で明快に報告する論文を掲載する学術雑誌であってほしいと思います。

(安田誠史)

## 次号予告 (第61巻・第12号)

### 原 著

健康づくりのための身体活動基準2013による身体活動評価とメタボリックシンドローム横断研究……………川上諒子, 他  
Vanuatu 共和国の小学校高学年における喫煙, 飲酒, カフェ飲料経験の関連要因……………中世古恵美, 他

## ベストレビュー賞について

日本公衆衛生学会編集委員会は平成24年度よりベストレビュー賞を創設しました。平成26年度は以下の方々が受賞されました。おめでとうございます。

北川 公子 (共立女子大学看護学部)

関 明穂 (岡山県健康づくり財団)

渡辺修一郎 (桜美林大学大学院老年学研究科)

### 歴代受賞者

#### 平成25年度

和泉比佐子 (札幌医科大学保健医療学部看護学科)

上原 里程 (宇都宮市保健所)

#### 平成24年度

後藤 あや (福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座)

村上 義孝 (東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野)